

令和元年5月20日

「国立公園の利用及び管理に関する調査」を開始

みずかみ たもつ

近畿管区行政評価局(局長:水上 保)は、地域における行政上の課題や問題を取り上げ、行政運営の改善を図るため、独自に調査を企画し実施しています(地域計画調査)。

国立公園については、近年、政府の「明日の日本を支える観光ビジョン」において、「世界水準のナショナルパークへ」とのビジョンが示されるなど、訪日外国人の利用者を増やすことが目標として掲げられ、「国立公園満喫プロジェクト」や、その展開事業が実施されています。また、訪日外国人、障害者、高齢者を始め、誰もが利用しやすい国立公園を目指すため、公園施設へのユニバーサルデザインの導入を推進することとされています。

これらを背景に、当局では、管内の国立公園(吉野熊野、山陰海岸及び瀬戸内海国立公園)について、その利用が促進され、誰もが安全で利用しやすいものとなるよう、現地の実情や関係機関の取組の実態を調査することとしましたので、公表します。



吉野熊野国立公園

【照会先】

総務省 近畿管区行政評価局 つ え まさひろ
評価監視部 第4評価監視官 津江 正博
電話 : 06-6941-8906 FAX : 06-6941-8999
E-mail : knk22@soumu. go. jp

本報道資料は、近畿管区行政評価局のホームページに掲載しています。
<http://www.soumu.go.jp/kanku/kinki.html>

国立公園の利用及び管理に関する調査

調査の経緯

- ◆ 環境省は、全国の国立公園の訪日外国人利用者数を2015年の490万人から2020年の1,000万人に増やすことを目標に掲げ、国立公園満喫プロジェクト等を実施
- ◆ また、訪日外国人、障害者、高齢者等の誰もが利用しやすい国立公園とすることを目指し、公園施設へのユニバーサルデザインの導入を推進する方針

- ◆ 国立公園を利用する訪日外国人は増加している一方、観光庁が実施した訪日外国人旅行者に対するアンケートによれば、旅行中に困ったこととして、「多言語表示の少なさ・分かりにくさ」が上位に
- ◆ また、我が国の高齢化等をふまえ、国立公園の主要施設を中心として、ユニバーサルデザインの導入を推進することが求められるところ

- ◆ 管内の3国立公園において、多言語表記やユニバーサルデザインの導入状況等を实地に調査、関係機関の取組等についても確認
- ◆ 多様な利用者の利便性向上等のため、国立公園の利用及び管理の方策について検討

主な調査項目

1 公園計画等の策定及び変更状況

公園計画等の策定・変更状況、国立公園満喫プロジェクト展開事業の実施状況等

2 利用者の利便性向上及び安全確保

訪日外国人を始めとする利用者への利便性向上及び安全確保のための情報提供等

3 公園施設の整備及び維持管理状況

施設整備におけるユニバーサルデザインの導入状況、維持管理状況等

調査対象機関等(予定)

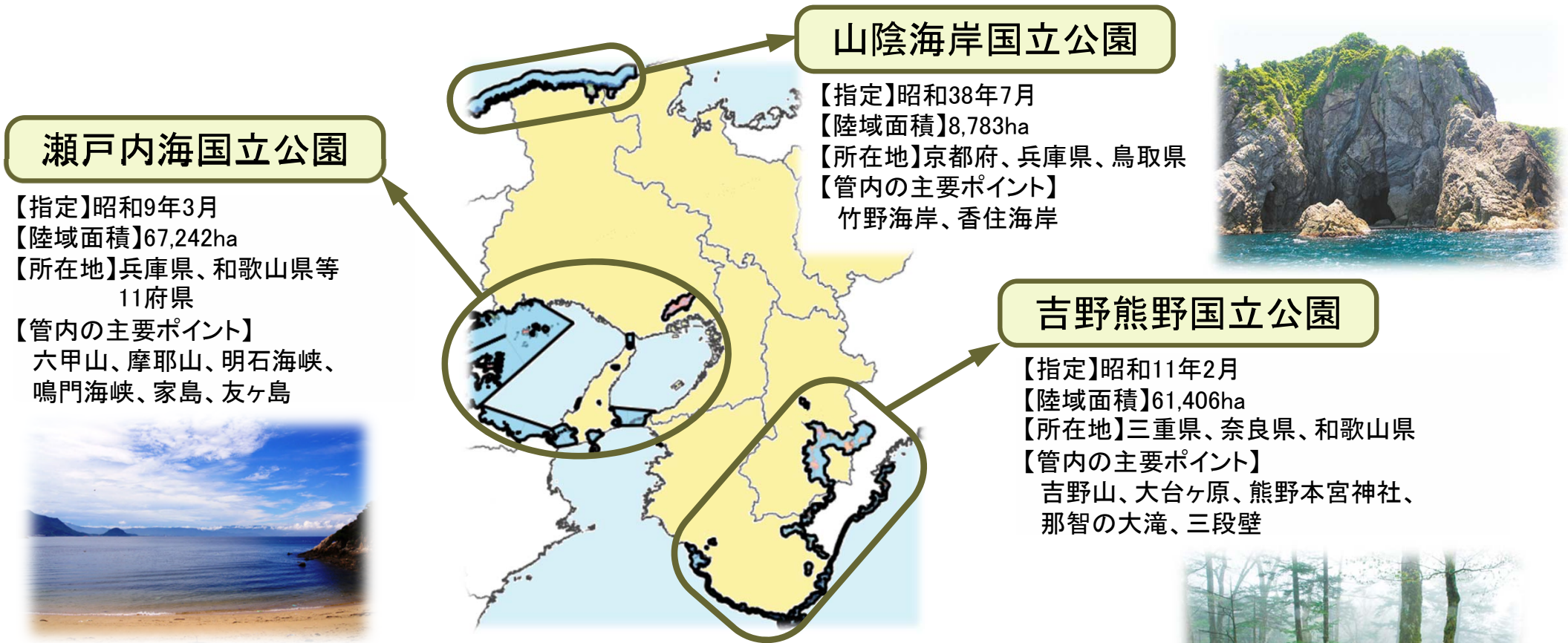
環境省近畿地方環境事務所、
県、市町村、関係団体等

調査期間(予定)

令和元年5月～11月

(参考)

近畿管内における国立公園の概況



国立公園の訪日外国人利用者数(推計値)の推移

(単位:人、%)

公園名	平成26年	27年	28年
吉野熊野	21,325 (100.0)	53,086 (248.9)	59,054 (277.0)
山陰海岸	22,294 (100.0)	32,248 (144.6)	50,213 (225.2)
瀬戸内海	218,582 (100.0)	296,188 (135.5)	309,803 (141.7)

(注)1 ()内は平成26年を100.0とした指数

2 本表の訪日外国人利用者数(推計値)は、各公園の全域を対象としている。

(注)当該ページの図表及び写真等は、環境省ウェブサイトから引用した。